

M01a SOLAR-C で目指す科学および Science Working Group (SWG) 活動

今田晋亮 (東大), 清水敏文, 鳥海森 (宇宙研), 原弘久, 勝川行雄, 末松芳法, 岡本文典, 石川遼子, 大場崇義, 久保雅仁, 川畑佑典, 鄭祥子, 渡邊鉄哉 (国立天文台), 川手朋子 (核融合研), 渡邊恭子 (防衛大), 飯田祐輔 (新潟大), 横山央明, 一本潔, 永田伸一, 浅井歩 (京都大), 草野完也, 増田智 (名古屋大), ほか Solar-C international team

SOLAR-C は高空間分解能 (0.4 秒角)、高時間分解能 (1 秒程度)、広い温度範囲 ($10^4 - 10^7\text{K}$) で観測する極端紫外・紫外域の分光撮像観測装置で、2020 年代に最優先で実現を目指す日本主導の国際協力ミッションである。SOLAR-C の科学目標として、I) 彩層・コロナと太陽風の形成に必要なエネルギー・質量輸送機構および散逸機構の究明、II) 太陽面爆発現象の物理過程の解明を掲げており、2028 年夏の打ち上げに向けてサイエンスの議論も進めている。

JAXA SOLAR-C Science Working Group (SWG) は、SOLAR-C の国際プロジェクトチームと、SOLAR-C の科学的成果の向上に関心のある科学者で構成されるより広範な国際的な科学コミュニティとの間の架け橋としての役割を果たすものであり、活動が始まったところである。SWG の主な任務は、(1) プロジェクトチームに科学に基づくアドバイスを提供すること、(2) 国際科学コミュニティによる科学活動を促進することによって、Solar-C の科学的成果を最大化することである。SWG 活動を促すため、Mission Operation sub-WG、Data Analysis sub-WG、Science Center sub-WG などのサブワーキンググループを組織する予定である。本講演では SOLAR-C の科学目標およびアウトカムをレビューし、現状の SWG 活動に関して報告する。